

西九部清書抄卷

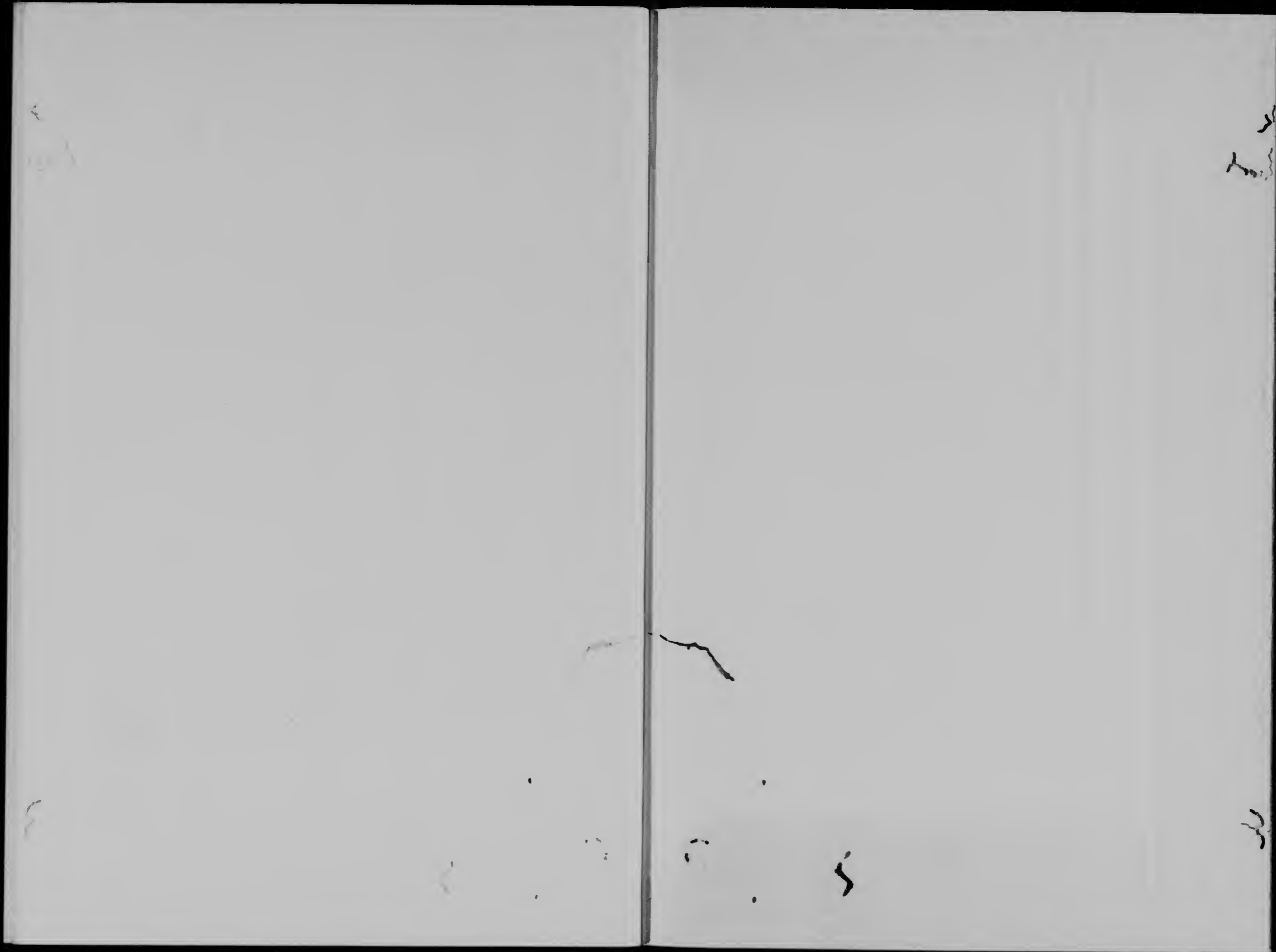
一

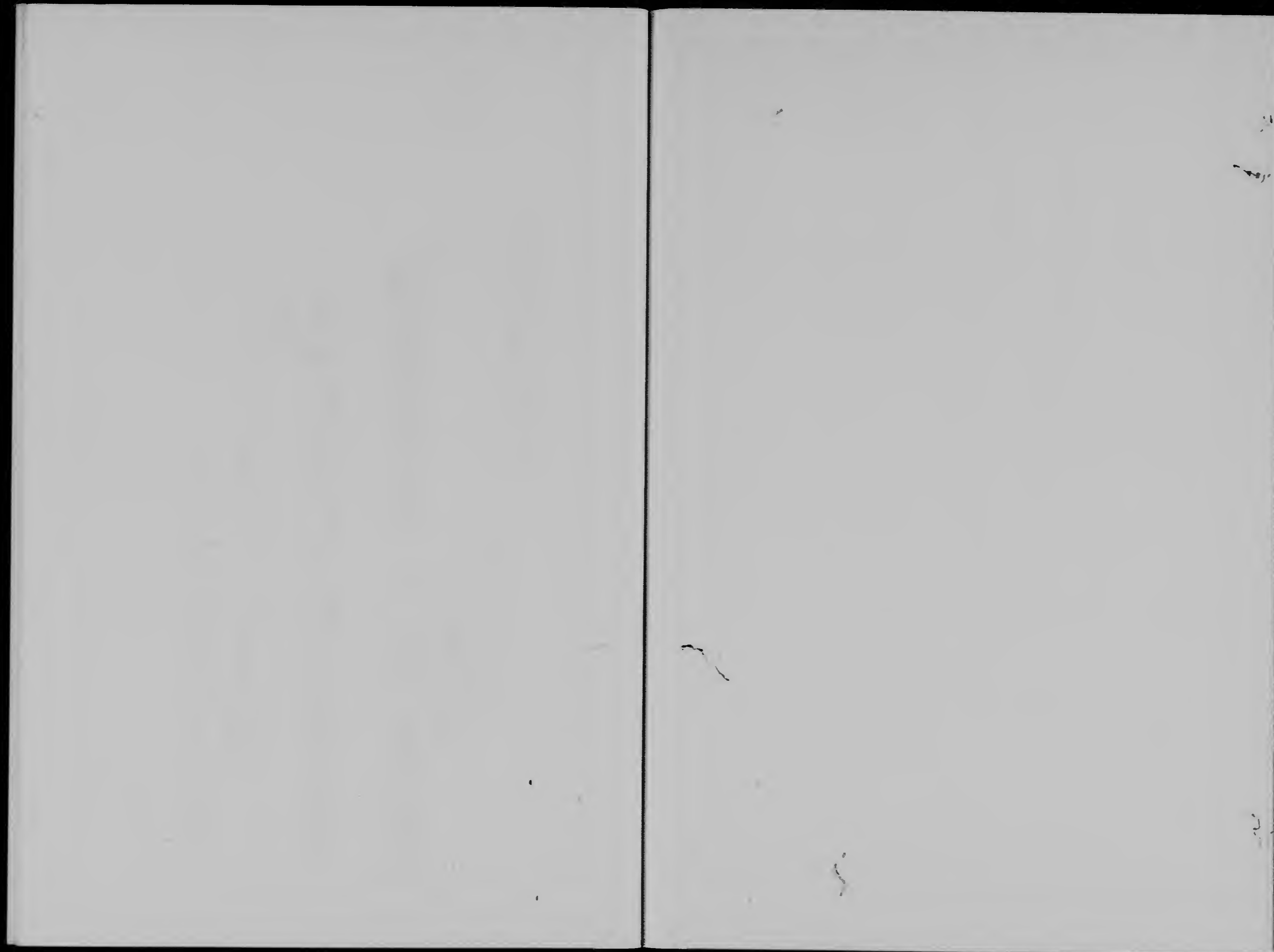
和	書	類
三二五九	九	號
三九二	冊	
一五二四	一五	架

內閣文庫
番號和 32560
冊數 394 (234)
函號 152 121

共二







寛政九^己年三月八日

兎

新津藩酒井通守組

四後 團 安右衛門 京定

團 安右衛門 京保 敬願

新津藩松平内膳九組

享和元^丙年三月廿八日 拜入 小笠原 若狭守 支配

享和二^戊年三月十二日 致仕

文化二^乙年二月十二日 死 六十三 歳

寛政九年三月八日

山本権希正藏殿

新津藩三尾藩藩祖

西元
新津藩酒井辺江守組 三尾後 山本忠兵衛心邦

後永八郎

同年六月十七日學子向小公也乞し

物々々々巻物ニと結家

文化七年十二月十八日西丸新津藩祖殿

文化九年申年十二月廿三日寛政

重脩系譜沙田と惣先て芳乃と

とて英令ニ時後ニと結家

文化十年十一月廿八日西城の十人殿

同年十一月十六日布衣著と虎子也
文化十二年九月十四日諸家系
寫副本仕立授合芳阿らとと時後
と後家

寛政九年三月八日

栗

新津藩酒井道江守組

小林次郎文正誠無願

新津藩古尾孫藩組

言後

小林十右衛門正統

寛政九年三月八日

水滸長共清恭林茂子

西元

新中書酒井辺江守組

新中書長共清恭林茂子

又曰 水滸長共清恭林茂子

寛政九年三月八日

宮川藩九席定規書子

新洲藩幕末普請組

要
新洲藩浦井辺守組

三言儀 宮川修職定規

同年同月廿八日の沙院の対子に
候一七時後ニシテ終リ

同年同月九日迄的沙院ありて器物
及ニシテ終リ

寛政十年三月十四日の沙院に
対子小加多りて時後ニシテ終リ

寛政十一年三月十六日浦井場始り

対系候しつ時後ニと後日同月
十八日當中に召し上りて黄金ニと後
享和二年正月十日湯原場始
め対系列しつ時後ニと後日
唯此土百當中に召し上りて黄金
ニと後日
享和三年三月十六日大の湯後の
対系列しつ時後ニと後日
文化元年十月十日大の湯後の対系
列しつ時後ニと後日

文化二年八月廿二日死二十九歳

寛政九年二月八日

珍本三言卷の着福熟願

新津曲調和泉守祖

兎
新津番酒井近江守祖

二言 鈴木仍其湯茂郷

内卒候

寛政十一年九月廿六日大の湯後の
対系加りしつ時後ニと後日

寛政九年三月八日

兎

新田酒井近江守組

本村岩次郎種奉貴子

新田家曲調和泉守組

二言子後 本村次郎種方

同年四月九日寛の涉流者て器物_二
と給_一是より同年毎尔小的二及_二
涉流_一何て必器物_二と給_一家
寛政十年年正月十日寛政十未年
正月十六日寛政十二申年正月十二日
御弓場始れ対_一候_一て時後_二
と給_一必明の日言申に_一了_一て

英令英令と経る

同年九月晦日大の沙流の対多不
列して時後時後と経る

享和二年二月廿三日大の沙流の
対多不候して時後時後と経る

享和三年正月十日文化元年
正月十日文化二年正月十日御ら

場始の対多不列して時後時後と経る
暇の日必言中にござりて英令英令と
経る

文化二年十月廿六日大の沙流の
対多不候して時後時後と経る

文化三年正月十日文化四年
正月十日沙流場始の対多不列して
時後時後と経るは必暇の日言中言中にござ
りて英令英令と経る

文化四年八月十六日西九洲路を以

同年十二月 日帯に芳野りて
西城小石子道に英令英令と経る是
より毎年毎年の如し

寛政九年三月八日

兎

新井藩酒井近江守組

大野左膳元久末子

新井藩酒井和泉守組

言石 大野富元兼元壽

内子儀

享和元年三月廿九日死二十八歳

寛政十一年六月二日

兎

新井善酒井辺守組

三言依

井上采馬心武

井上座次郎心房表子

大井善言本統後守組

享和二年十月八日輝入

寛政九年三月八日

兎

新洲番酒井辺江守組

百子後
又

小菅新幕成証憑

小菅新幕成証憑
大洲番酒井辺江守組

同日誓のうち九十又後と記し
作とある

享和二年五月十九日詳入濃川織部支配

享和三年 月 日 見

寛政九年三月八日

西元

新津藩酒井辺江守組

去田長清久傳子

大津友成日房殿組

署名 春田重常久啓

四三番字後

寛政九年三月八日

兎

新井藩酒井辺江守組

至山形市良連急願

大井藩酒野三友守組

三右衛門

遠山九右衛門良輔

文化又_辰年七月廿九日祥入辺友登助五郎

寛政九年三月八日

兎

新井酒井辺守組

四後

内後源玄清正恭

内後子左衛門正信惣願

大内後清野正夜守組

寛政九年三月八日

兎

新洲番酒井辺守組

武蔵孫之丞秀盛子

大所敷建初口邊守組

四
名

武蔵孫之丞秀義

寛政九年三月廿日

兎

新津藩酒井邊江守組

言書 戸田千之助時保

戸田市三席附一席

本所敷建於内通江組

寛政十年三月十日又の法統の
討子小列して時後三子孫取

寛政九年二月八日

栗

新汁普酒井辺守組

三言奉儀 建部宗四郎秀澄

建部宗九郎秀詮吉子

西丸小十郎源齋組

同年五月十六日御勘定後

瑞物_及之法家

寛政九年三月八日

兎

新汁番酒井近江守組

万年安永萬頼次惣願

小室信組信南修理亮支配

言後 万年六三而頼豊

寛政十年十月晦日老祥賜黄金二枚入室賀

三夜守支配

頼豊歸家の比ち二年勢ひきと

八十有餘る包は恩賜めたらふ

三月八日石橋不仕使

寛政九年四月八日

西元

新中津藩酒井辺江守組

菅沼太馬呂久吉子

本陣新中津藩河守組

三言依 菅沼太馬呂久吉 春行

寛政十一年五月廿七日死四十九歳

寛政十一年六月二日

兎

新井善酒井辺江守組

福崎吉左衛門貞廣惣領

大井善米田善房守組

百俵言 福崎富三郎貞一

改吉左衛門

同日勢れうち二百俵後の言に
那しより作とるもの

寛政十一^未年六月二日

兎

新井藩酒井辺江守組

百俵

板花友之助昌義

板花安次市昌親魚願

大井藩酒井邊江守組

享和二年二月廿二日大の沙汰の

射子不列し時後ニシテ

文化元子年十月十日大の沙汰此

射子不加之川で時後ニシテ

文化二年八月廿七日死冬十二案

享和元年十月十九日

西元

新洲普濟社守組

言儀 芳根河三郎重辰

芳根河三郎重辰子

西元御初戸

同日習礼うらふ平儀を是しあふ
仰せ給ふ

享和元年十月九日

兎

新井藩酒井辺江守組

六百石 加茂傳兵衛景久

加茂傳兵衛景久

大井出直菅沼伊賀守組

享和二年四月廿六日東軍新井藩

流叙洲 涉後河川で瑞物_二と信_一

文化元_子年三月廿日押入酒井組馬守支配

文化十_戌年三月九日元組西丸

新井藩後巻表在藩組

享和元年十月十九日

天明三
寛政元
西元年十月六日
同日
甲府勘
勘

新津藩酒舟込守組

山名次郎重實忠子

甲府勘勘松平信若守支統

四百十俵

山名次郎如風

千石

享和二年十二月廿八日

虎

新井清酒井道守組

宇佐美隆而長孝貴子

大津海市橋下徳守組

三言後

宇佐美久三而長旭

享和二年十二月廿八日

珍本三次市正昌共子

大洲藩月夜甲斐守也

新洲藩酒井近江守組 言奉 珍本三次市正昌共子

兎

文化三年九月廿七日圓物沙流

河川で器物云々

文化四年三月廿日大の沙流

射子小候一七時後云々

文化五年十一月三日西城の山里

あり大の沙流比射子小候一七時後

云々

文化六_三年十月九日山室光之大的
涉鏡の射子小列しつ時後ニと
陸軍

文化七年十月三日山室光之大的
涉鏡の射子小加弓同の時後ニと陸軍
同年同月廿二日草麻涉鏡ありて
瑞物_五ニと陸軍

文化十五年三月八日山室光之大的涉鏡
此射子小列しつ時後ニと陸軍

文化十四_酉年十月廿九日西元新涉鏡組

享和二年十二月廿八日

西元

新洲番酒井道江守組

二言

松野 伸義時

松野加門三春二言總願

西元小支八荒井十言番組

同日勢持うら又十俵と定し
作とる可白

文化元年五月廿日

栗

新中書少監系安房守祖

伊吹慶元市極極願

右中書少監伊吹守祖

言若 伊吹又吉市守行

文化二年十二月廿二日 輝入西卿御宮亮

文化元_子年三月廿日

西元

新井清小笠原安房守組

曲淵總存(英章惣領)

大井忠定(源信守組)

三言俵 曲淵長次郎英總

文化二_丑年三月九日死三十七歳

文化元年_子年_乙月_廿日

本多百助信亮貴子

西丸

本陣 本多百助信亮

新田番 本多宗安房守組 二言 依 本多百助信用

文化十年_乙年_丙三月_八日 西城_力山_里
あゝ大の湯_流の_射手_系列_一之_時後_二と_終家

文化元年五月廿日

堀内左助実貴子

要

小十人野間合之節組

新井藩少将系安房守組

三十九
石余

堀内十郎其清正奉

同日替乃うち三十俵余と云

あふ作と云

文化二年八月十一日死又十二歳

文化元子年八月廿日

戸田小平次改恒惣辰

西元

新汗藩小笠原安房守組
三言石 戸田帯刀忠明

小笠原恒久貞忠屋高五郎

再勅

文化二五年八月三日

西九

新津藩小笠原安房守組

窪田春三郎忠高殿

大津松平丹後守組

三郎

窪田春三郎忠高殿

文化二年八月晦日

西九

新沖藩小笠原安房守組

永井十郎彦忠臣組

西九小十人荒井十彦組

二百十俵 永井十郎彦忠臣

同日勢れうち二百五十俵の言ふ進
と仰出さる

文化六年十一月九日西城の山
あて大的湯鏡の射ふ列して
時後ニと終る

文化三年五月七日

西元

新田番小笠原安房守組

七條各小知正討正傳

小知三左衛門兵衛彌孫兼祖

西元沖初戸

文化六年十月三日西城の山里
あゝ大的涉鏡の討ふ小列して
時後三と治家

文化六年十月九日山里あて大的
涉鏡の討ふ小列して時後三と治家
文化七年十月三日山里あて大的
涉鏡の討ふ小列して時後三と治家

文化十二年十一月十九日急有風雪
一西域あり沖放雪の時沙供ら
み候して多射留同月廿日西候
石り過して時彼三と結り

文化十三年二月十二日山里めて
大の沙流の村に候して時彼三
と結り

文化十四年三月十日山里めて
大の沙流村に候して時彼三
と結り

文化三年八月七日

足立要人政保惣願

大津安房守組

栗
新津藩小笠原安房守組 二言後 足立儀右衛門政久

同日勢のうち又十後を足立の
作とある

文化六年十月九日西城の山里
あつく大的寺院の村に列して
時後三とある

文化七年十月三日山里あつく
大的寺院の村に列して時後三

と結
文化八未年九月晦日山置如く
大の沙流の対に候一と時後
と結

文化三年五月七日

西九

新沖青小笠原安房守組
二百石 島居友四郎倍行

島居友四郎倍行
大津島居友四郎倍行

文化三年^庚年八月七日

西元

新沖藩小笠原安房守組 署名 永井源希信宣

月二日

永井源希信秀惣願

大和安達初門通延組

文化六年十月九日大の涉後
の対し小候しと時後ニと給事^{山里}
文化七年十月三日西城の山里
あゝ大の涉後の対しに列しと
時後ニと給事

文化三年五月七日

兎

新井藩少室系安房守組

大井友高本主水廻
三層 松系六左衛門正賀

同日惣持うち又十後と足し
作らるる

文化四年八月廿五日

元

新津藩小笠原安房守組

千石

服部陽一席保紹

後三席保和彌涼兼祖

版元一年保教慈辰

大津藩藤川三治齋組

政 新九席

一席太清

文化五年十月三日山里中て大の

涉流の対面に列して時後三席の

文化六年十月九日山里中て大の

涉流の対面に列して時後三席の

文化十年十二月十二日沖小納戸

同年同月十六日布衣署と免す

文化四年五月廿日

西元

新井藩小笠原安房守組

二言後

朝長正右衛門恭豪

浪屋正右衛門泰要物願

小笠原并次右衛門組

同日替れうち又十俵と足し
作とる

4

7

...

...

...

